



3枚のボードに心を重ねた教え子は、「恩師と一緒に地元・多久に貢献できることに感謝しています」と話され、関係者が見守る中で、一筆一筆丁寧に仕上げられていました。3駅でアニメ風や立体的な絵画風の孔子や、衣装の色や模様の違いを確かめ、メッセージの「ことば」に想いを託してはいかがでしょうか。
(12月14日、東原庁舎で)

いや決意などを書いて投函すると、定期的に集められ、多久聖廟に安置されている孔子様に届けられることになります。

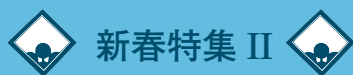
贈呈式の後には、さらなる賛同者の手によって聖廟にまつわる絵や文字が描かれました。そのボードには、東背振中学校教頭で画家の牛丸和人さん(多久町)が多く資料を基に、聖廟を背景にした孔子を現代風に親しみやすく、格調高くデザイン。東部中に在籍された当時の教え子で、若手造形作家として活躍中の西山正晃さん(東多久町)と、家業をしながら造形活動をされている瀬戸口優子さん(東多久町)が参加されて、三人三様の孔子が描かれています。添えられているのは、博多人形師の倉富博美さん(多久町)が、受験生を応援する気持ちを込めて作られた「ことば」です。JR九州の協力で年末には、多久駅のほかに小城駅と唐津駅にも設置。絵馬の形をした「願い紙」にそれぞれの想

有名な学問の祖とされる『孔子』を祀るからです。巨大絵馬は、「この多久聖廟の認知度をもっと広げよう」や「多久聖廟に来ることができない受験生などの励みにしてもらおう」と願う市民の想いが人から人へとつながって、アイデアが生まれ、それを多久市観光協会が産業技術学院に製作を依頼し、できあがったものです。

現在、多久市観光協会では、多久を魅力ある観光地にしていくため、3人の研究員が調査・研究を続けていますが、その取り組みから関係者や市民の貴重な意見やアイデアが集まり、様々な活動へと広がっています。



◀完成間近の巨大絵馬



新春特集Ⅱ

新しい話題を知ろう！ 広めよう！

多久を想う心重ねて誕生

多久聖廟巨大絵馬と紙芝居「多久物語」



▲多久の歴史が楽しく学べるオリジナルの紙芝居。全31ページ、緻密なタッチで仕上げられた美しい絵と語りを楽しんでください。

なつかしくて新しいライブ感を楽しんでもてはいかがですか。また、中央公民館では、老人会、各種会合などの地域活動で誰もが活用できるよう、舞台もセッ

久の魅力や聖廟の由来などを伝える活動を重ねていく間に、いろんな出会いや発見をされながら、地域に貢献されています。その活動の中で出てきたアイデアが多久の歴史が分かる紙芝居でした。ガイドの江打正敏さん(多久町)が、歴史に沿って台本を書かれ、市内の小学校で読み聞かせを行っている『親と子のBookランド』がこの活動に賛助し、ストーリーづくりが進みました。描かれたこの紙芝居が与える新たな文化や教育素材としての活用を広めるために、演じる舞台づくりの製作を中央公民館が産業技術学院に依頼したものでした。

多久のあらましが学べる紙芝居「多久物語」とその舞台は、『親と子のBookランド』をはじめ、市内の読み聞かせグループや観光ガイド活動に役立てられますので、

▶インテリア工芸科訓練生を客席に初披露される「多久物語」

